

道東地域¹の金融経済概況

【全体感】

道東地域の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から弱い動きとなっている。

すなわち、公共投資は、緩やかに増加している。設備投資は、高水準で推移している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。個人消費は、弱い動きとなっている。生産は、持ち直しの動きが鈍化している。労働需給は、引き締まっている。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症の拡大の帰趨、管内の経済活動全般に及ぼす影響などを注視していく必要がある。

【各論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、緩やかに増加している。

2月の公共工事請負金額は、前年を上回った。

設備投資は、高水準で推移している。

主要企業の19年度設備投資は、前年を下回る計画となっているが、高水準を維持している。この間、農業や物流関連などでは、引き続き新規投資がみられる。

1月の建築物着工床面積は、前年を下回った。

住宅投資は、弱めの動きとなっている。

1月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲ともに前年を下回り、全体でも前年を下回った。

個人消費は、弱い動きとなっている。

主要小売店の売上高（1月）は、前年を上回った。

耐久消費財をみると、乗用車新車登録台数（2月、含む軽）は、普通・小型

¹ 道東地域とは、当店の業務区域（釧路、帯広、根室の3市および釧路・十勝総合振興局、根室振興局の所管区域）を指す。

乗用車、軽乗用車ともに前年を下回り、全体としても前年を下回った。家電販売は、テレビや白物家電を中心に前年並みの売れ行きとなっている。

旅行・観光関連をみると、主要温泉地の宿泊人数（1月）、市内ホテルの宿泊人数（1月）ともに前年を下回った。また、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響による落ち込みがみられている。この間、空港乗降客数（1月）は、前年を上回った。

2. 生産

生産は、持ち直しの動きが鈍化している。

主要生産品目別（1月）にみると、乳製品は好調な生乳生産を背景に前年を上回っている。水産加工品は加工魚種によって区々の動きとなっており、全体では弱めの動きとなっている。紙・パルプ製品は前年を下回っている。

3. 雇用

労働需給は、引き締まっている。

1月の有効求人倍率は、27か月連続で前年を上回った。

4. 企業倒産

1月の企業倒産は、倒産件数は前年を下回り、負債総額は前年を上回った。

5. 金融情勢

預金残高は、流動性預金を中心に増加している。

貸出残高は、前年を上回った。

貸出約定平均金利は、既往ボトム並みで推移している。

以 上